

棚倉町下水道事業経営戦略プラン【概要版】

下水道事業経営戦略プラン策定の目的

●人口減少への対応

本町においては今後は少子高齢化による人口減少が進む見込みであり、人口規模に見合った計画見直しが求められています。

●施設の改築・更新への対応

過去に建設した施設の老朽化も経年に伴い進行しており、維持管理や改築更新に重点を置いた経営方針を策定する必要があります。

上記の目的を考慮し、今後の下水道事業の経営方針として、平成28年度から平成37年度までの10年間における

「**棚倉町下水道事業経営戦略プラン**」を策定しました。

下水道事業の現況

本町の下水道事業は公共下水道事業及び農業集落排水事業により実施されています。

●公共下水道事業

平成3年度に事業着手して以来、町中心市街地において順次整備を進め、平成27年度末現在、下水道管きょ延長約31km、下水道処理場1箇所が整備済みとなっています。

●農業集落排水事業

平成6年度に事業着手以来、逆川地区において順次整備を進め、平成27年度末現在、集落排水管きょ延長約13km、集落排水処理施設1箇所が整備済み。(平成12年度整備完了)

●下水道接続率(下水道管渠整備済み区域世帯数に対する下水道接続済み世帯数の比率)

平成27年度末現在、公共下水道事業で56.7%、農業集落排水事業で60.7%となっています。

●起債残高(平成27年度末)

過去に施設建設費用を補うため、借入れを行った事業債の残高は公共下水道事業約18.5億円、農業集落排水事業約4.5億円となっています。

下水道事業の課題

●人口減少に伴う影響

少子高齢化により、将来人口は減少するものと見込まれています。人口減少は料金収入の減少を招き、経営収支悪化の要因となるのみならず、税収減少を通じて下水道事業の主要財源の一つである、一般会計からの繰入金確保にも影響を及ぼすものと考えられます。

●施設の老朽化対策

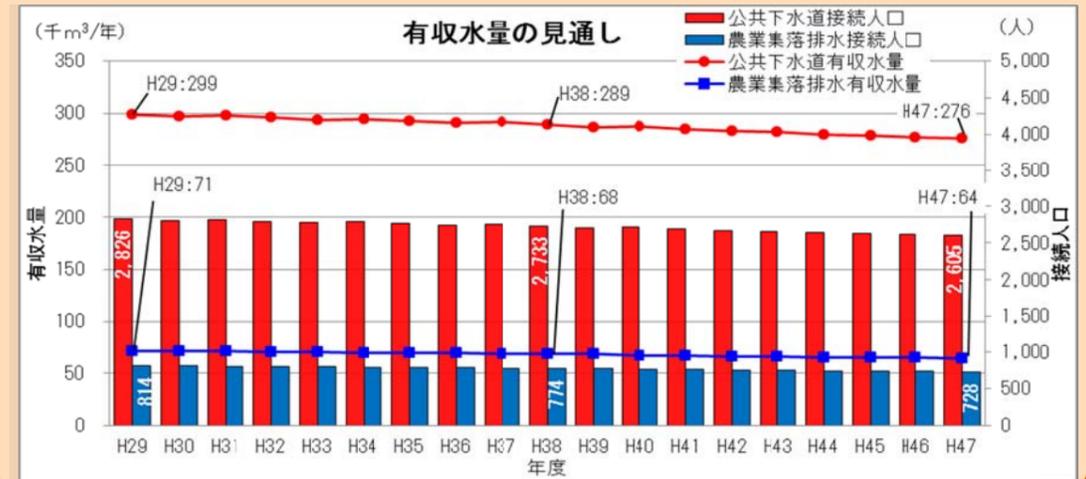
下水道サービスを安定して提供するため、施設の老朽化対策を行う必要があります。今後は施設の改築・更新等を計画的に実施することが求められています。

下水道事業経営環境の見通し

●将来有収水量の見通し

下水道接続率は増加傾向にありますが、下水道接続人口は少子高齢化の影響を受け減少傾向となっています。

これにより料金収入の算定基準となる有収水量も、公共下水道では10年間で約3.3%、農業集落排水では同じく4.2%減少することが見込まれます。



下水道事業経営の基本方針

1. 下水道事業の健全経営

- ・未利用エネルギーや民間活力の活用を積極的に検討し、収入増加を図ります。
- ・定期的な使用料の見直しを行い、使用料の適正化を図ります。
- ・将来的に企業会計に移行し経営状況の見える化を行います。

2. 施設の計画的な改築更新

- ・公共下水道事業では平成27年度に策定した長寿命化計画に基づき、施設の計画的な改築更新を実施します。
- ・農業集落排水事業では、既存処理施設の改築診断(機能強化診断事業)を実施し、改築更新を含めた施設機能の維持を図ります。

3. 施設管理の共同化・広域化

- ・維持管理費のコスト縮減を図るため、処理施設管理の共同化・広域化を積極的に検討推進します。

4. 下水道事業全体計画の見直し

- ・区域内人口の減少を見据えて、適切な維持管理ができるよう整備区域の見直しを行います。